




# M-AUDIO® KEYSTATION 61 MK3

---

ユーザーガイド

## 安全にお使いいただくために

### この取扱説明書で使用している危険防止のマーク

-  このマークは、操作とメンテナンスにおける重要な指示があることを示しています。
-  このマークは、適切な電圧で機器を使用しないと、感電の恐れがあるという警告です。
-  このマークは、ご利用の出力コネクタが感電を起こす恐れのある電圧を含んでいるという警告です。

### 製品をご使用の際は、使用上の注意に従ってください。

1. 注意事項を読んでください。
2. 注意事項を守ってください。
3. すべての警告に従ってください。
4. すべての注意事項に従ってください。
5. 水の近くで使用しないでください。
6. お手入れの際は、乾いた布を使用してください。液体洗剤は、フロントパネルのコントロール装置を損なったり、危険な状態を招いたりする恐れがあるので、使用しないでください。
7. 取扱説明書に従って設置してください。
8. 暖房器具や調理器具、アンプを含むそのほかの音楽機器など、熱を生じる機器の近くには、置かないでください。
9. 電源プラグは、危険防止のために、正しく使用してください。アース端子付の電源プラグは、2つのブレードのほかに棒状のアース端子が付いています。これは、安全のためのものです。ご利用のコンセント差込口の形状に合わないときは、専門の業者にコンセントの取り替えを依頼してください。
10. 電源コードを誤って踏んだり、挟んだりしないように注意してください。特にプラグ部、コンセント差込口、本装置の出力部分に注意してください。
11. 付属品は、メーカーが指定しているものを使用してください。
12. 音響機器専用の台車、スタンド、ブラケット、テーブルに載せて使用してください。設置の際、ケーブルの接続や装置の設置方法が、損傷や故障の原因にならないよう注意してください。
13. 雷が鳴っているときや、長時間使用しないときは、プラグを抜いてください。
14. 修理やアフター・サービスについては、専用窓口にお問い合わせください。電源コードやプラグが損傷したとき、装置の上に液体をこぼしたり、物を落としたりしたとき、装置が雨や湿気にさらされたとき、正常に動作しないとき等、故障の際は、修理が必要となります。
15. 本装置は、正常に動作していても熱を発生しますので、周辺機器とは最低 15 センチ離し、風通しの良い場所でご利用ください。
16. 本装置をアンプに接続して、ヘッドフォンやスピーカで長時間、大音量で使用すると、難聴になる恐れがあります。(聴力低下や、耳鳴りを感じたら、専門の医師にご相談ください)。
17. 水がかかるような場所に置かないでください。花瓶、缶飲料、コーヒーカップなど、液体が入ったものを本装置の上に置かないでください。
18. 警告：火災や感電防止のため、雨や湿気にさらさないでください。

[ WEB ] <http://m-audio.jp>

**M-AUDIO**® <お問い合わせ>

**inMusic Japan 株式会社**

**カスタマ・サポート部**

〒106-0047 東京都港区南麻布3-19-23

オーク南麻布ビルディング6階

<http://m-audio.jp/support/>

## ユーザ・ガイド

### はじめに

Keystation 61 MK3をお買い上げいただきありがとうございます。M-Audioは「お客様のパフォーマンスを最高のものにする」ということを唯一念頭に置き、製品設計を行っております。

### 同梱物

- ・ Keystation 61 MK3 キーボード本体
- ・ ソフトウェア・ダウンロードカード
- ・ USB ケーブル
- ・ ユーザーガイド/保証書

### サポート

Keystation シリーズの各モデルの最新情報につきましては、製品ページをご覧ください。

<http://m-audio.jp>

また、製品のサポートにつきましては、以下のページをご覧ください。

<http://m-audio.jp/support/>

### クイックスタート

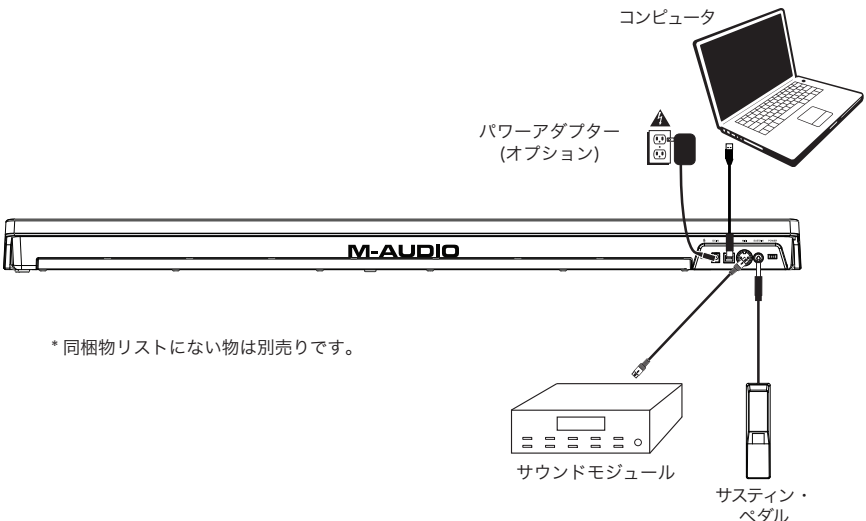
#### キーボードを接続する前に

電源に繋がっているUSBポートまたは他の電源装置を使用して、キーボードに電源を供給することができます。Keystationは低電力デバイスであり、他のシンセサイザーを操作するなどして、コンピュータとの接続を絶たない限り、外部電源は必要ありません。

Keystationのキーボードは、USBバスパワーで動作します。コンピュータに装備されたUSB端子や外部電源を使用するUSBハブに接続することをお勧めします。コンピュータに接続してシンセサイザーのソフトを起動するときは、USBケーブルを使用しキーボード本体に電源を入れて下さい。

また、Keystation キーボードは、別途 Apple iPad Camera Connection Kit をご用意いただければ、iOSデバイスと接続可能です。

### 接続図



## 推奨

**Pro Tools | First M-Audio Edition** : Keystation には Pro Tools/First M-Audio Edition が同梱されているので、すぐに専門のソフトで音楽を作り始めることができます。 m-audio.com に Keystation 61 MK3 を登録し、ユーザーアカウントにサインインしたら、Pro Tools/First M-Audio Edition のインストール手順に従ってください。

**Ableton Live Lite: Keystation 61 MK3** には Ableton Live Lite が同梱されているので、すぐに専門のソフトで音楽を作り始めることができます。 Ableton Live Lite をインストールするには、付属のソフトウェアダウンロードカードの手順に従ってください。

**バーチャル・インストゥルメント** : 付属のバーチャル・インストゥルメント・プラグインをインストールするには、ソフトウェアダウンロードカードの指示に従ってください。インストール後、ほとんどの DAW はバーチャル・インストゥルメント・プラグインを自動的に読み込みません。Pro Tools/First M-Audio Edition でバーチャルインストゥルメント・プラグインにアクセスするには、スキャンするソフトのプラグインフォルダを選択して下さい。

### Pro Tools | First M-Audio Edition/AAXプラグインフォルダ:

#### Windows (32-bit):

C:\Program Files (x86)\Common Files\Avid\Audio\Plug-Ins

#### Windows (64-bit):

C:\Program Files\Common Files\Avid\Audio\Plug-Ins

#### Mac:

Macintosh HD/Library/Application Support/Avid/Audio/Plug-Ins

### Ableton/VSTプラグイン:

#### Windows (32-bit):

C:\Program Files (x86)\VSTplugins

#### Windows (64-bit):

C:\Program Files\VSTplugins

#### MacOS:

Macintosh HD/Library/Audio/Plugins/VST

Ableton Live Lite でプラグインフォルダを設定するには :

1. 「環境設定」メニューに移動します。適切なプラグインフォルダを選択します。
2. 「File / Folder」タブを選択します。プラグインソースから、適切なプラグインフォルダをオンにします。
3. 選択した後、「Plug-In Folder」ボタンがオンになります。表示されていない場合は、ボタンをクリックしてオンにします。

環境設定メニューを終了します。

## Ableton Live Lite セットアップ方法

1. Keystation 61 MK3 を付属の USB ケーブルを使用してコンピュータの USB ポートに接続し、Ableton Live Lite を起動します。
2. Ableton Live Lite 環境設定ウィンドウを開きます。オーディオタブでオーディオデバイスを選択します。これは使用しているオーディオ・インターフェイスによって異なります。

MAC: 「Live」 > 「環境設定」 を選択

PC: 「オプション」 > 「環境設定」 を選択

3. Link / MIDI タブを選択します。MIDI ポートセクションで、以下のように設定を調整します。  
入力: 「Keystation 61 MK3」の横の Track と Remote の列の「On」ボタンを選択します。  
出力: 「Keystation 61 MK3」の横の Track と Remote の列の「On」ボタンを選択します。
4. 次に、コントロール・サーフェスのウィンドウの上部で、行1のドロップダウンリストから「MackieControl」を選択します。行1の入力列の下で、Keystation 61 MK3 (ポート 2) を選択します。「出力」が「なし」に設定されている行1の3番目のドロップダウンメニューを確認します。Keystation 61 MK3 コントローラのトランスポートコントロール (再生、停止、録音) は、Ableton Live Lite のトランスポート機能を制御し調整されます。さらに、Keystation シリーズコントローラの方ボタンは、トラックの選択とクリップのトリガーを制御するようになりました。
5. ウィンドウを閉じます。
6. 音を作成するためにインストゥルメントまたはプラグインを Ableton Live Lite に追加するには、「CATEGORIES」列で「インストゥルメント」または「プラグイン」を選択します。
7. 「CATEGORIES」列の右にある「名前」列に、選択したインストゥルメントまたはプラグインがあり、そのインストゥルメントを Ableton Live Lite の MIDIトラックにクリック&ドラッグしてインストゥルメントをロードします。

Keystation 61 MK3 でインストゥルメントをトリガーできるようになりました。

## Pro Tools | First M-Audio Edition セットアップ方法

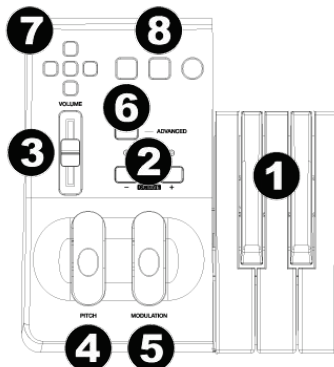
1. Keystation 61 MK3 を付属のUSBケーブルを使用してコンピュータのUSBポートに接続し、Pro Tools | First M-Audio Editionを起動します。
2. プロジェクトを開く、または作成します。
3. Setupプルダウンメニューを選択し、MIDI Input Devicesを開きます。Keystation 61 MK3の横にあるボックスをクリックして、Keystation 61 MK3からのMIDI入力を有効にします。
4. Setupプルダウンメニューを選択し、Playback Engineを開きます。Playback Engineのプルダウンメニューからオーディオデバイスを選択します。
5. 新しいインストゥルメント・トラックを作成するには、「Track」プルダウンメニューを選択し、「新規」を選択します。
6. ニュープルダウンメニューで、「Stereo」、「Instrument Track」の順に選択します。
7. 新しく作成したトラックで、トラックのインサートA~Eをクリックし、「Multichannel Plugin」 > 「Instrument」を選択し、Xpand! 2 (Stereo) など、使用したいインストゥルメントを選択してインサートをトラックに追加します。これでKeystation 61 MK3でプラグインを起動できるようになりました。  
注: Windows ユーザは、外部サウンドカード (M-Track 2X2 など) または低レイテンシーASIO ドライバが必要です。

## 初期設定

インストール作業を完了した後に MIDI アプリケーションの設定をする必要があります。Keystation は本体にサウンドのプリセットを搭載していないため、そのままでは鍵盤を押しても音は出ません。鍵盤を押すと Keystation から MIDI データのみが送信されるからです。MIDI データはどのような音が演奏されるのかについての指示を与えますが、実際にその音を聴くには、Keystation から送られてくる MIDI データを読み込んで指示通りにその音を演奏するように MIDI アプリケーションを設定する必要があります。この設定には、一般に、MIDI アプリケーションのオプションメニューやデバイス設定メニューにおいて適当な機器を選択することが必要になります。Keystation は、Windows では「USB オーディオデバイス (USB Audio Device)」などとして表示され、その他のオペレーティングシステムでは、音楽アプリケーションの MIDI デバイスセクションの中に「Keystation (49、61、88)」として表示されます。正しい設定作業については、MIDI アプリケーションのマニュアルをご参照ください。

## 各部の機能

### トップパネル



### キーボード

白鍵と黒鍵にはそれぞれ役割の名称が表示されています。これらの鍵盤を使って、MIDI チャンネルの設定やトランスポーズ、プログラム・チェンジ情報の送信などを行います。

### オクターブ・ボタン

オクターブ「+」ボタンを一回押すと、オクターブ「-」ボタンの上の LED が消えキーボードが現在 1 オクターブ高い状態であることを示します。再びオクターブ「+」ボタンを押すと、キーボードは 2 オクターブ高い状態になります。以後、同様にシフトアップします。キーボードはオクターブシフト 0 の状態から音域を上下にそれぞれ最高 4 オクターブ変化させることが可能です。

オクターブ「-」ボタンを押すと、オクターブ「+」ボタンの上の LED が消え 1 オクターブ下がります。もし、オクターブ「-」ボタンの上の LED のみが点灯している場合は、まだ 0 設定より低いオクターブであることを示します。オクターブ「+」ボタンの上の LED のみが点灯している場合は 0 設定より高いオクターブを示します。

キーボードのオクターブシフトを「0」設置の状態に戻すにはオクターブ「+」ボタンとオクターブ「-」ボタンを同時に押します。両方の LED が点灯して、オクターブシフトが「0」に戻ったことを示します。

設定可能な 7 つの MID 機能を操作するには、オクターブ「+」と「-」ボタンを使用します。詳しくは「アドバンスド・ファンクション」の項をご参照ください。

### ボリューム・スライダ

ボリューム・スライダは演奏されるノートのボリューム（音量）をコントロールするための MIDI メッセージを送り出します。

ボリューム・スライダに、パン（バランス）、アタック、リバブ、コーラス、その他多くのエフェクトをアサインすることもできます（詳しくは「アドバンスド・ボタン」の項をご参照ください）。

### ピッチベンド・ホイール

ピッチベンド・ホイールは、キーボードで弾いたノートのピッチ（音程）を上下に変化させるのに使います。これを使用すると、一般のキーボード演奏では見られないギタースタイルのリフ等のフレーズを演奏することができます。ノートの変化の幅は音源によって異なります。一般的な設定は 2 セミトーン（半音）ですが、最大上下 2 オクターブまで設定できます。

### モジュレーション・ホイール

モジュレーション・ホイールは、演奏中の音声のモジュレーションを行うのに使います。この種のリアルタイム・コントローラは、元来、電子キーボード楽器で、アコースティック楽器の演奏者と同様のビブラート等のオプションを提供するために導入されました。ピッチベンド・ホイールと同様に、モジュレーション・ホイールは MIDI アサイン可能です。

### アドバンスド・ボタン (Advanced) ボタン

鍵盤の左側の「Advanced」ボタンを使って他のアドバンスド機能が利用できます。

このボタンを押すと、キーボードは編集モードになり、鍵盤を使って機能の選択やデータ入力ができます。

Advanced ボタン上のランプが点灯している時は、キーボードが編集モードであることを示します。編集モードではキーボードの黒鍵盤は機能を選択するのに使い、白鍵盤はデータ入力と MIDI チャンネル選択と、DAW の選択に使います。

機能を選択し終わるか、CANCEL 鍵盤または ENTER 鍵盤を押すと、編集モードは終了し（Advanced ボタン上のランプが消えます）、キーボードは通常の演奏モードに戻ります。

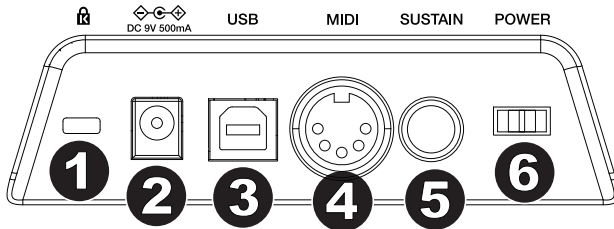
ヒント：詳しくは「アドバンスド・ファンクション」の項をご参照ください。

### 十字ボタン

これらのボタンは、MIDI、Mackie Control や HUI プロトコルに対応したソフトウェアをコントロールするために使用します。詳しくは、「十字ボタンとトランスポート・ボタン」の項をご参照ください。

### トランスポート・ボタン

これらのボタンは、MIDI、Mackie Control や HUI プロトコルに対応したソフトウェアをコントロールするために使用します。詳しくは、「十字ボタンとトランスポート・ボタン」の項をご参照ください。



1. Kensington®Lock：セキュリティ・ケーブルを接続します。
2. DC電源アダプターの入力：USB接続でKeystationの電源をつけたくない場合、MIDIコネクタを使用して外部サウンドモジュールを使用する場合は、ここにDC 9 V、500 mA電源アダプタ（別売）を接続します。
3. USB 端子：USB ケーブルでコンピュータと接続します。1 本の USB ケーブルで、電源の供給と MIDI 信号のやり取りを同時に行います。
4. MIDI Out：5ピンのMIDIケーブル（別売）を使って、このジャックを外部サウンドモジュールのMIDI入力またはシンセサイザーのMIDI入力に接続します。
5. サスティン・ペダル端子：アンラッチ・タイプのフットス POWERイッチ（別売）を接続します。スイッチを押すと、キーボードを押さえ続けることなく、演奏した音を持続します。

ヒント：Keystation キーボードは、電源投入時にサスティン・ペダルの極性を自動的に認識しますので、ペダルの極性を問いません。キーボードの電源を入れる前にペダルを接続してください。もし、ペダルの動きが効果と逆になってしまった場合は、ペダルを踏みながら Keystation の電源をオンにしてください。

6. オン / オフ・スイッチ：キーボードの電源をオン・オフします。



## アドバンスド・ファンクション

CANCEL	DATA - OCTAVE	DATA - TRANSPOSE	DATA - PROGRAM	DATA - BANK LSP	DATA - BANK MIDI	DATA - CHANNEL	DATA - CC	OCTAVE -	OCTAVE 0	OCTAVE +	RESET ALL CONTROLLERS	ALL NOTES OFF	TRANSPOSE -	TRANSPOSE 0	TRANSPOSE +	WHEEL ASSIGN	SLIDER ASSIGN	PROGRAM	BANK LSB	BANK MIDI	MIDI OUT						
CH 1	CH 2	CH 3	CH 4	CH 5	CH 6	CH 7	CH 8	CH 9	CH 10	CH 11	CH 12	CH 13	CH 14	CH 15	CH 16	Mackie/HUI/MIDI	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	ENTER

オクターブ「+」「-」ボタンは、初期設定オクターブシフトが行えるように設定されています。このボタンで、オクターブ・シフト設定以外にも7種類の MIDI 機能をコントロールすることもできます。

最初の7つの黒鍵盤はオクターブ・ボタンを設定する鍵盤です。これらの鍵盤でオクターブ・ボタンの機能が選択できます。選択できる機能には、マイナスの値を送信しないものもあります。この場合、ボタンの上の LED は両方とも点灯したままの状態になります。

ボタンの機能を選択するには：

1. Advancedボタンを押して、キーボードを編集モードにします。
2. 該当する黒鍵盤を押します。黒鍵盤を押すと、CCをせずに編集モードは終了し、演奏モードに戻ります。

## オクターブ・シフト

オクターブ「+」「-」ボタンは、初期設定オクターブシフトが行えるように設定されています。このボタンで、オクターブ・シフト設定以外にも5種類の MIDI 機能をコントロールすることもできます。

最初の6つの黒鍵盤はオクターブ・ボタンを設定する鍵盤です。これらの鍵盤でオクターブ・ボタンの機能が選択できます。選択できる機能には、マイナスの値を送信しないものもあります。この場合、ボタンの上の LED は両方とも点灯したままの状態になります。

ボタンの機能を選択するには：

1. Advancedボタンを押して、キーボードを編集モードにします。
2. 該当する黒鍵盤を押します。黒鍵盤を押すと編集モードは終了し、演奏モードに戻ります。

オクターブ鍵盤を使ってのオクターブ・シフトは、オクターブ・ボタンをオクターブ・シフト以外の MIDI コントロールに使用している時に、オクターブシフトを素早くできる有効で便利な方法です：

1. Advancedボタンを押して、キーボードを編集モードにします。
2. 「OCT +」を表す黒鍵盤 (Bb2) を押すと 1 オクターブだけ上がります。再び押すと 2 オクターブ上がるという場合にオクターブを上げていくことができます。「OCT -」を表す黒鍵盤 (F#2) を押すと 1 オクターブだけ下がります。再び押すと 2 オクターブ下がるという場合にオクターブを下げていくことができます。また、「OCT 0」を表す黒鍵盤 (G#2) を押すとオクターブ・シフト設定が 0 にリセットされます。
3. オクターブ・シフトの選択が終わったら、「ENTER」を表す C5 を押して編集モードを終了します。

# M-AUDIO

## トランスポーズ

1 オクターブ上下するよりも数セミトーンだけピッチを上下させたい場合に有効なのがトランスポーズ機能です。例えば、ある曲をボーカリストと演奏していて、最も高い音程の発声ができない時などには、ピッチを 1~2 セミトーン下げるとうまくいくこともあります。これはトランスポーズという MIDI 機能で行うことができます。

トランスポーズには、シフト幅が±12であるという点を除けば、オクターブ・シフトと同様の操作をします。オクターブ・シフトと同様、トランスポーズにも2通りの方法があります。オクターブ「+」「-」ボタンを使うか、または黒鍵盤「TRANS -」「TRANS 0」「TRANS +」を用います。

オクターブ「+」「-」ボタンにトランスポーズ機能をアサインするには：

1. Advancedボタンを押してキーボードを編集モードにします。
2. 「TRANS」を表す黒鍵盤 (Eb2) を押します (「TRANS」を押すと編集モードは終了します)。
3. 「+」ボタンを押すと演奏中のノートのピッチが高くなるのがわかります。
4. 「-」ボタンを押すと、半音下がります。
5. トランスポーズをキャンセルするには「+」と「-」を同時に押します。

## MIDIチャンネル

キーボードからは MIDI データを MIDI チャンネル 16 系統のいずれでも送信することができます。しかし、MIDI機器や MIDI ソフトウェアによっては、特定のチャンネルで送ることが要求される場合があります。この場合、データ送信チャンネルを以下のように変更できます。

1. Advancedボタンを押してキーボードを編集モードにします。
2. MIDI チャンネルを表す CH1~CH16 鍵盤 (D1~E3) の内、いずれか該当するものを押します。

例えば、10 チャンネルでデータ送信しなければならない外部機器を接続する場合、Advanceボタンを押して「CH10」の鍵盤 (F2) を押して 10 チャンネルを選択します。オクターブ「+」「-」ボタンを使ってチャンネルを選択することもできます。この場合、「+」「-」ボタンを使ってチャンネルを 1 つずつ上げ下げします。

16 チャンネルが設定された状態でオクターブ「+」ボタンを押すと 1 チャンネルが選択されます。「+」「-」ボタンを同時に押すと 1 チャンネルが選択されます。

## プログラムチェンジ

プログラムチェンジは楽器またはボイスを変更するときに使います。一例として、楽器をベース音に変えてみます。アコースティック・ベースを選択するプログラムチェンジ 32 を送信します。プログラムチェンジを送信するには 2 通りの方法があります：

**インクリメンタル / デクリメンタル (+1/-1) 式プログラムチェンジ：**

1. Advancedボタンを押します。
2. 「PROGRAM」を表す黒鍵盤 (F#2) を押します。
3. これでオクターブ「+」「-」ボタンを使ってプログラムチェンジができます。
4. 鍵盤を弾きながらお望みの楽器が見つかるまで「+」ボタンを押します。

**直接選択式プログラムチェンジ：**

1. Advancedボタンを押します。
2. 黒鍵盤「PROGRAM#」を押します。
3. 「3」「2」「ENTER」を表す鍵盤 C4、E3、C5 を順次押します。あるいは「+」「-」ボタンを使って数値を変えてから「ENTER」を押します。これでキーボードは GM ベース音 32 を演奏するように設定されました。

上の方法は、ある曲にどのサウンドが最も適しているか、楽器を次々と代えながら聴いて選ぶ際に便利です。「+」「-」ボタンを同時に押すとグランドピアノに相当するプログラム 0 が選択されます。

**バンクセレクトLSBとバンクセレクトMSB**

プログラムチェンジは、楽器またはボイスを変更するのに最もよく使われるメッセージです。しかし、プログラムチェンジでアクセスできる楽器の数は 128 に制限されています。機器によっては 128 以上のボイスを内蔵したものもあり、それらのボイスにアクセスするには特別な方法が要求されます。一般的にこうした機器では、バンク LSB とバンク MSB のメッセージを uses。

**インクリメンタル / デクリメンタル (+1/-1) 式バンク LSB とバンク MSB チェンジ :**

1. Advanced ボタンを押します。
2. 「BANK LSB」を表す黒鍵盤 (G#2) または 「BANK MSB#」を表す黒鍵盤 (Bb2) を押します。
3. これでオクターブ 「+」 「-」 ボタンを使ってプログラムチェンジができます。
4. 鍵盤を弾きながら望みの楽器が見つかるまで 「+」 ボタンを押します。

**直接選択法 :**

1. Advanced ボタンを押します。
2. 黒鍵盤 「BANK LSB#」、または 「BANK MSB#」を押します。
3. 「3」「2」「ENTER」を表す鍵盤 C4、E3、C5 を順次押します。あるいは、「+」「-」 ボタンを使って数値を変えてから、「ENTER」を押します。

プログラムチェンジと同様、オクターブ 「+」 「-」 ボタンを使って 「バンクセレクト LSB」または 「バンクセレクト MSB」の番号を変更する場合 (上記 1 の方法)、「+」「-」 ボタンを同時に押すとバンク 0 が選択されます。

**ボリューム・スライダ**

モジュレーションホイールと同様に、ボリューム・スライダには本マニュアル末に記載されている 131 種類のエフェクトのいずれでもアサインすることができます。

ボリューム・スライダにエフェクトをアサインする方法 :

1. Advanced ボタンを押して、キーボードを編集モードにします。
2. 「FADER」を表す黒鍵盤 (D#4) を押します。
3. 数値データ入力鍵盤を使い、ボリューム・スライダにアサインしたいエフェクトの CC 番号を入力します。

数値データを入力する際に間違えた場合は、「CANCEL」鍵盤 (C1) を押して編集モードを終了させます。この場合、ボリューム・スライダにアサインされているエフェクトは変わりません。

# M-AUDIO

## コントロール・チェンジ

オクターブ/データボタンを設定し、オン/オフを切り替えることのできるコントロールチェンジメッセージを送信するには、以下の手順を行います。

1. Advancedボタンを押して編集モードにします。
2. 「CC」を表す黒鍵盤（Eb3）を押します。
3. 数値データ入力鍵盤G4～B5を使い、「+」「-」ボタンにアサインしたいコントロールチェンジの番号を入力します。
4. 設定されたMIDIコントロール・チェンジ・メッセージをオン/オフにして送信します（一回押すとオン、もう一度押すとオフになります）。

Octave「+」「-」ボタンは、一時的なMIDIコントロール・チェンジ・メッセージを送信することもできます。Octave / Dataボタンを一時的なMIDIコントロール・チェンジ・メッセージに設定するには、以下の手順を行います。

1. Advancedボタンを押して編集モードにします。
2. 「CC」を表す黒鍵盤（Eb3）を2回押します。  
注：一時的なCCメッセージを「+」「-」ボタンに設定すると、LEDが点滅します。
3. 数値データ入力鍵盤G4～B5を使い、「+」「-」ボタンに割り当てるアサインしたいコントロールチェンジの番号を入力します。
4. 設定されたMIDIコントロール・チェンジ・メッセージをオン/オフにして送信します（一回押すとオン、もう一度押すとオフになります）。

## モジュレーション・ホイール

他のCCや、MIDIメッセージをモジュレーション・ホイールにアサインすることができます。一般的なエフェクトとして次のようなものがあります。

- MIDI CC 01：モジュレーション
- MIDI CC 07：ボリューム
- MIDI CC 10：パン（バランス）
- MIDI CC 05：ポルタメント

全部で 131 種類のエフェクトがあります。これらのエフェクトを音声に実際にかけるには、MIDIメッセージを受信する MIDI 機器がこれを読み込み実行できなければなりません。多くの機器では少なくとも、ボリューム、モジュレーション、パンは実行可能です。

モジュレーション・ホイールに MIDI メッセージをアサインする方法：

1. Advanced ボタンを押して、キーボードを編集モードにします。
2. 「WHEEL」を表す黒鍵盤（C#4）を押します。
3. 数値データ入力鍵盤 G3～B4 を使い、モジュレーション・ホイールにアサインしたいエフェクトの番号を入力します。

あるいは「+」「-」ボタンを使って番号を変えることもできます。希望の番号を選んだ後、「ENTER」鍵盤（C5）を押します。

エフェクトを強くするにはモジュレーション・ホイールの上に（リアパネル方向に）動かします。数値データを入力する際に間違えた場合は、「CANCEL」鍵盤（C1）を押して編集モードを終了させます。この場合、モジュレーション・ホイールにアサインされていたエフェクトは変わりません。

キーボードの電源を OFF にすると、モジュレーション・ホイールにアサインされたデータは失われます。キーボードの電源を ON にすると、モジュレーション・ホイールには初期値としてモジュレーション（CC番号 01）がアサインされます。

一例として、モジュレーション・ホイールにCC番号 10（パンまたはバランス）をアサインしてみます。

1. Advanced ボタンを押して、キーボードを編集モードにします。
2. 「WHEEL」を表す黒鍵盤（C#4）を押します。
3. A3 を押して「1」を入力します。
4. G3 を押して「0」を入力すると、「10」を入力したことになります。
5. C5 を押して「ENTER」を入力します。

## 十字ボタンとトランスポート・ボタン

十字ボタンとトランスポート・ボタンは、MIDI、Mackie Control、HUI プロトコルに対応したソフトウェアをコントロールするために使用します。

Mackie Control か HUI を選択するには：

1. Advancedボタンを押して、キーボードを編集モードにします。
2. 「DAW」を表す鍵盤（F3）を押します。  
**ヒント：**「+」と「-」LED が緑に点灯している場合は、MACKIE モード、赤く点灯している場合は、HUI モードです。
3. 「ENTER」鍵盤（C5）を押します。  
**ヒント：**お使いのソフトウェア側も Keystation からコマンドを受信するように設定する必要があります。Keystation の MACKIE Control/HUI のコマンドはポート 2 から送信されます。

### 一般

ご使用中に次のようなトラブルが生じた場合には、以下の指示に従って操作してください。

**問題 1：インストール後は適切に動作していたのに突然動作しなくなった。**

**解決 1：**電源を切って 10 秒間置いてください。その後、コンピュータを再起動して再度お試しください。

**問題 2：サスティン・ペダルをキーボードに接続したが逆操作になっている。**

**解決 2：**サスティン・ペダルの極性は、キーボードの電源が入った段階で検知されます。電源 ON 時に、サスティン・ペダルは OFF の位置になっているとみなされます。従って、サスティン・ペダルを押えていない状態を OFF に設定したい場合は、サスティン・ペダルが押えられていないことを確認してから電源を入れてください。

**問題 3：鍵盤を押してから音が鳴るまでに時間のずれがある。**

**解決 3：**この遅れはレイテンシと呼ばれています。MIDI 信号のレイテンシはご使用のソフトシンセに起因しています。MIDI データはコントロールデータに過ぎません。MIDI はソフトシンセによって読み取られます。その後、ソフトシンセは実際の音を作り出すために複雑な計算を数多く実行します。この処理には時間がかかるのです。

高品位のオーディオ・インターフェイスをご使用になることをお勧めします。オーディオ・インターフェイスの選択については、弊社カスタマ・サポートまでお問い合わせください。またレイテンシの値を減らすには、ご使用のソフトウェア内のオーディオの初期設定（またはオーディオのオプション）の選択肢の中から新しいドライバを選択する必要があります。オーディオの初期設定の方法が分からない場合は、ご使用のソフトウェアに付属の説明書をご参照ください。

### MIDIの問題が発生した場合

Keystation シリーズのキーボードは、コンピュータの MIDI 作業を簡単にできるよう設計されています。しかし、時には作業がうまく行かない場合も起こり得ます。多くの場合、キーボードに原因があるのではなく、受信 MIDI 機器の方に問題があります。こうした時に MIDI 機能が役立ちますので、全てのコントローラーをリセットして下さい。

### リセット・オールコントローラ

ボイスに不要なエフェクトがかかっている場合、それが何かのエフェクトかわからなくても「リセット・オールコントローラ」MIDI メッセージを送信して全てのエフェクトを 0 にリセットできます。

1. Advanced ボタンを押して、キーボードを編集モードにします。
2. 「RESET」を表す黒鍵盤 (C#3) を押します。
3. 編集モードは終了し、全てのエフェクトは消えます。

### 工場出荷時へのリセット

1. Keystation の電源を切ります。
2. 「+」 「-」 ボタンを押し続けます。
3. Keystation の電源を入れます。
4. ボタンから手を話します。

キーボードは、工場出荷時の状態に戻ります。

## MIDIアウト

MIDI出力端子は、キーボードの後ろ側にあり、キーボードを外部のサウンドモジュールまたはMIDIキーボードに接続するために使用できます。

デフォルトでは、スイッチをオンにすると、すべてのコントローラー・データがMIDI出力とUSB出力を介して送信されます。MIDI出力を従来のUSB-MIDIインターフェースのように動作させたい場合は、以下の手順に従いMIDI出力モードにしてください：

1. Advancedボタンを押して編集モードにします。
2. 「MIDI OUT」表示黒鍵盤を押します。
3. 次にENTERの白鍵盤を押して確定します。
4. キーボードは、コンピュータから受信したデータを、MIDI OUT端子を介して接続されているどのデバイスにも送信できるようになりました。

MIDI出力を使用するには、シーケンサーのMIDI出力デバイスとして「Keystation USB MIDI Out」を選択します。

## 「+」 「-」 ボタンユーザー設定

00 Bank Select	39 Channel Volume LSB	73 Attack Time
01 Modulation	40 Balance LSB	74 Cut- off Frequency
02 Breath Control	41 Controller 41	75 Controller 75
03 Controller 3	42 Pan LSB	76 Controller 76
04 Foot Control	38 Data Entry LSB	77 Controller 77
05 Porta Time	39 Channel Volume LSB	78 Controller 78
06 Data Entry	40 Balance LSB	79 Controller 79
07 Channel Volume	41 Controller 41	80 Gen Purpose 5
08 Balance	42 Pan LSB	112 Controller 112
09 Controller 9	43 Expression LSB	113 Controller 113
10 Pan	44 Controller 44	114 Controller 114
11 Expression	45 Controller 45	115 Controller 115
12 Effects Controller 1	46 Controller 46	116 Controller 116
13 Effects Controller 2	47 Controller 47	117 Controller 117
14 Controller 14	48 Gen Purpose 1 LSB	118 Controller 118
15 Controller 15	49 Gen Purpose 2 LSB	119 Controller 119
16 Gen Purpose 1	50 Gen Purpose 3 LSB	<b>Channel Mode Messages:</b>
17 Gen Purpose 2	51 Gen Purpose 4 LSB	120 All Sound off
18 Gen Purpose 3	52 Controller 52	121 Reset all Controllers
19 Gen Purpose 4	53 Controller 53	122 Local Control
20 Controller 20	54 Controller 54	123 All Notes Off
21 Controller 21	55 Controller 55	124 Omni Off
22 Controller 22	56 Controller 56	125 Omni On
23 Controller 23	57 Controller 57	126 Mono On (Poly Off)
24 Controller 24	58 Controller 58	127 Poly On (Mono Off)
25 Controller 25	59 Controller 59	<b>Extra RPN Messages:</b>
26 Controller 26	60 Controller 60	128 Pitch Bend sensitivity
27 Controller 27	61 Controller 61	129 Fine Tune
28 Controller 28	62 Controller 62	130 Coarse Tune
29 Controller 29	63 Controller 63	131 Channel Pressure
30 Controller 30	64 Sustain Pedal	
31 Controller 31	65 Portamento	
32 Bank Select LSB	66 Sostenuto	
33 Modulation LSB	67 Soft Pedal	
34 Breath Control LSB	68 Legato Pedal	
35 Controller 35	69 Hold 2	
36 Foot Control LSB	70 Sound Variation	
37 Porta Time LSB	71 Resonance	
38 Data Entry LSB	72 Release Time	



**付録****技術仕様**

電源：USB バスパワー または DC 9 V、500 mA センタープラス電源（別売）

サイズ（W x D x H）：約 995 x 189 x 68 mm

重量：約 4.1kg

**商標およびライセンス**

M-Audio は inMusic Brands, Inc. の商標で、米国およびその他の国々で登録されています。

Mackie Control と HUI は LOUD Technologies Inc. の商標または登録商標です。

Mac と iPad、OS X は Apple Inc. の商標またはサービス・マークであり、米国およびその他の国々で登録されています。

Windows は、米国およびその他の国々において、Microsoft Corporation の登録商標です。

その他の社名および商品名は、それぞれ各社の登録商標または商標です。



